

第三講座 説明的文章の読解

P 48 ① 25年度

△解答▽

- 1 ①昼行(性) ②視覚
- 2 色彩の効果を決めるのは生物の側
- 3 現代のわれわれが、青空を好ましいと感じ、夕焼けを強烈な刺激と感ずること。

4 エ
5 ウ

△解説▽

1 ④段落の最後に「サルも類人猿も昼行性である。」とある。またその2行前に「彼らは視覚を発達させた」とある。ここでの彼らはサルと類人猿のこと。

2 筆者は、昆虫の例をだすことで、「人間と昆虫では、色に対する捉え方が違う」ということを説明しようとしている。

3 直前の「それ」は「人間にとつて」青空と夕焼けが同じ意味をもっている」を指している。⑤には「青い空は好ましいもの」⑥には「夕焼けは、強烈な刺激」とある。また「したがって」という語にも着目する。

4 線Cの4行前に「青い空の」というのは「ささか変である。」とある。人間のそれぞれの色に対する印象から考えると「不自然」だと筆者が考えていることが分かる。

5 ①：話題の提示

②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿

⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿

P 50 ② 26年度

△解答▽

- 1 ①直線 ②曲線
- 2 人間の強引な、暴力的な侵犯
- 3 エ
- 4 人工物と自然が調和した美しい風景。
- 5 ウ

△解説▽

1 空欄の前後に注目する。①の直前「形づくられている」と、②の直前「なだらかな」は、ともに1行目に出てくる。

2 25～28行目が今昔物語のまともになっている。人間の侵犯に対して、土着神たちが、抵抗を試みるとある。ここでの人間の侵犯とは、塔を建立することを指している。

3 39～40、44～45行目から作者は、自然と人工は反対語ではないと考えていることが分かる。イは「根拠をはっきりと示す」の部分が誤り。

4 線Cの直前で、自然と人工物が調和すると風景を壊さないと述べているので、この部分を中心にまとめる。また、棚田、水車に加えて、五重塔を例に挙げ、それが山並みに調和している様子を50行目で「美しい風景」と述べている。

5 「現代人は自然への畏怖心を忘れず」は本文33行目「しかし自然への畏怖心は今はない」を受けている部分。また、「自然との共存、気づくべきである」は、39～40行目、44～45行目から読み取る。

△解答▽

- 1 「Ⅰ」転がりにくい 「Ⅱ」握りやすい
- 2 自然の秩序や法則を、球技を通して再確認すること。
- 3 デザインが人の行為の
- 4 オ
- 5 ウ

△解説▽

- 1 設問中の「左右対称で生産性が高い」は19～20行目にあるので、そこに注目して解答を導く。
ただし空欄の下に句点がついているので、語尾を言いかえる必要がある。
- 2 直前の28～29行目にある、「人間は、～してきた」を指しているので、この部分をまとめる。ただし、字数を考え、省く所を考える必要がある。
- 3 線③から、筆者が「球と球技の関係」と「ものと暮らしの関係」に共通項を見出しているように読み取れる。そこで、42行目「球が丸くないと」同様」に注目して、42～44行目が——線③の部分と似ていることに気づくとよい。
- 4 50～51行目から、筆者が柳宗悦氏の着想に、共感していることが分かる。また次の段落が逆接の「しかし」ではじまっていることにも注目する。
- 5 選択肢中の「豊かな～意志を持って」は57～59行目などから、暮らしや～ならない」は2～4行目などから読み取ることができる。

△解説▽

- 1 「Ⅰ」個性 「Ⅱ」ナンバー
- 2 ゾウリムシは滅んでしまい、ヒメゾウリムシは生き残った
- 3 棲む場所とエサが異なることで、生物が競い合うことなく共存すること。
- 4 ア

- 1 空欄の前後の表現を本文中に探す。

Ⅰ 私たち一人ひとりとは特別な(Ⅰ) ある存在



(本文) 私たち一人ひとりとは特別な個性ある存在

Ⅱ (Ⅱ) を目指すべきである



(本文) ナンバー1を目指さなければ

ナンバー1を目指すべきなのか

- 2 図1を確認するとともに、15行目「ナンバー1しか生きられない。」20行目「共存することができない。」という内容も押さえて、一方は死に絶え、一方だけが生き残るという内容にする。

- 3 傍線部の「これ」は直前の段落を指し、それが答えとなる。まとめを取るときは、異なる要素はすべて押さえるようにする。

この段落は、生物によって棲む場所とエサが異なること、それによって競い合うことなく共存していることの二点が述べられていて、あとは具体例である。この二点をまとめる。

- 4 ア 本文最後の文と同じ内容である。

イ 人間は何かを目指すべきだという話を、本文ではしていない。

ウ 弱い生物が強い生物に勝つ、環境に合わせて棲む場所やエサを変えるという内容が本文に合わない。

エ 本文は、ナンバー1であることでオンリー1になるということが述べられており、この選択肢に述べられていることと逆である。

オ 生物が弱い部分を鍛えるという話はない。

△解答▽

- 1 ア
- 2 多層的真理
- 3 「A」関係 [B] 普遍
- 4 オ

△解説▽

- 1 前後の文の関係を読み取る。
(7行目) イノシシやシカ、サルは害獣だ。
(8行目) 村人は異なる視線ももっていた。
(10行目) 動物もまた村に暮らす仲間。
前後は逆の内容なのでア、「ところが」が正解となる。
- 2 傍線②の具体例を一般的な表現でまとめていることは抜き出す。
「動物は、害獣であり、仲間であり、猟の対象であり、尊敬すべきもの」

★「真理」は複数あり、「真理」と「真理」は矛盾した関係にある。

★このような「真理」のあり方を、多層的真理…と呼んでいる。

- 3 A、20～25行目に日本の発想についてまとめている。

- B、27～28行目にヨーロッパの発想についてまとめている。

- 4 (1)・「折り合い」…ゆずりあって、おたがいが納得すること。

(本文47～48行目) (おたがいが) 折れ合って妥協点を探ること。

・「居り合い」…いろいろな真理が共存できること。

この言葉を紹介することで、11段落にある日本の近代化の方向性がこのままでいいのだろうか、と読者に投げかけている。

↓「真理はひとつという欧米流の発想」を指す。

- (2) 【採点の観点】

○ 内容

日常生活の中で「折り合い」をつける上で大切にしたいことについて、筆者の意見にふれながら、自分の考えを明確に書いている。

「複数あらわれる物事のとらえ方を、妥協点を探ってひとつの真理にする(折り合う)のではなく、いろいろな真理が共存できる(居り合う)方法を探っていくべきだ。」

という10段落の内容を(筆者の意見)として触れながら、(折り合いをつける上で大切なこと)を具体例を述べつつ(自分の考え)を書く。
(例)友人と意見が異なった時は、お互いの意見を尊重しながら話し合いをしていくべきだ。

○ 表現

文脈に即して語句が適切に使われており、内容の述べ方や表現の仕方が工夫され、わかりやすい文章になっている。

○ 表記

漢字や仮名づかいが正しく、句読点が適切に使われている。

○ 解答例

筆者は、「真理」が複数あることを認め、「折り合い」をつける方法を見つけ出そうとする日本の伝統的な考え方について述べている。私は、自分と意見が異なる相手と「折り合い」をつけるために、相手に自分の意見を押付けたり、相手の意見に安易に妥協したりするのはなく、相手を尊重しつつ、納得がいくまで話し合って、お互いが満足できる結論を出すことを心掛けたい。

- | | | | | |
|----------|----------|---------|---------|----------|
| 1 いっさい | 2 いふ | 3 いんえい | 4 えいびん | 5 がいりやく |
| 6 かおく | 7 かっさい | 8 かっとう | 9 かんきゅう | 10 かんしょう |
| 11 かんとう | 12 かんゆう | 13 きせき | 14 ぎょうし | 15 きょだく |
| 16 きろ | 17 ぎんみ | 18 くじゅう | 19 けいこく | 20 けいしょう |
| 21 こうおつ | 22 こうけん | 23 してき | 24 しふく | 25 しゅうかく |
| 26 しゅうそく | 27 しょうだく | 28 しんぼく | 29 すいこう | 30 すんか |
| 31 せいよう | 32 せきはい | 33 せっしゅ | 34 せつり | 35 せんりつ |

36 たいよ 37 だんしょう 38 たんれん 39 ちようそ 40 ちよめい

P 60 6 31年度

〈解答〉

1 「I」一人用 「II」洞穴や岩壁

2 I

3 C

4 共同体の構造

5 隣人たちの共有空間から、外の世界と隔絶する場所に変化した。

6 才

〈解説〉

1 空欄前後をよく読み、対応した表現を本文から探す。

1 段落 一文目「…樹上に「一人用のベッドをつくって眠る。」

2 段落 二文目「…洞穴や岩壁など…で寝たのであろう。」

2 傍線②の文を読むと、二次的ベッドは最近になってつくられるようになったものだとわかる。すると、波線Ⅱは「今、私たちが使っているベッド」とあるのでこれが解答だとわかる。他は類人猿のベッドである。

3 脱文の「それ」という指示語に着目する。(C)の前にある「外からの視線を防ぐ壁」が住居の内外を区別する境界の役割を果たすものである。

4 傍線③のある5段落は「たとえば」という接続語が示す通り具体例の段落である。具体例を通して筆者の伝えたい内容は具体例の前後にまとめられている場合が多い。設問より、家の配置が何と関わっているのかを読みとる。直前に「住居と住居の配置は…：共同体の構造を反映していた」とある。

5 8段落の最後の文と9段落の一文目に「住居とは…隣人たちとの共有空間でもあったのだ。それがいつしか…：外の世界と隔絶する場所となった。」とあるのでここをまとめる。「何から何に変化した」とあるので「…から…」に変化した」とまとめる。

6 ア「人類の生物学的な進化の過程」が不適。イ「抽象的な論を具体化し」が不適。ウ 5段落と6段落は家の配置が共同体の構造と関わっていることを示す具体例である。エ「類似する例」が不適。

P 62 7 R 3年度

〈解答〉

1 「I」ことば 「II」美しい

2 意図する指

3 8 (段落)

4 「A」具体的な内容を伝達(する)

「B」ことばという音声素材のもつ美しさを引き出すことによって美の世界を創り出す

〈解説〉

1 I 警官が何のかわりに笛を吹いているのかを本文中から読み取る。2段落に「要するに警官は、ことばで『止れ』とか『行け』と言うかわりに、笛の音を使っているに過ぎず」とある。

II 音楽家が(笛を吹いて)音を出す目的について述べられている部分を探す。8段落に「演奏家は美しい、個性的で創造的な音色を出すために」とある。

2 傍線部②「伝達効率がよく」は警官の笛の音について説明した言葉である。よって、それについて説明している部分を文中から探す。7段落に「これに対し警官の吹く笛の音は…：警官の意図する指示が、簡潔にそして明確に伝わる」とある。ここから「伝達効率がよく」とは「意図する指示が、簡潔にそして明確に伝わる」ということだと分かる。

3 10 11段落の関係に注目する。10段落で自身の主張に合わない内容を述べた上で、「しかし」という逆接の接続詞を使って、11段落の自身の主張につなげている。8段落は「近代の音楽には…：試みもある。しかし全般的に言うならば…」という流れになっており、これは10 11段落と同じ構造である。

4 9段落の「いわゆる詩と称される言語芸術の分野においては…：具体的な内容を伝達するというよりも、むしろ響きのよいことば、美しいことば、快適なリズムなどを駆逐することで、音声による美の世界を創り出すことを主目的としている」とある。ここから、「むしろ」の直前が言語の本来的な機能、

「むしろ」の直後が言語の詩的機能であることが分かる。よって、**A**には「具体的な内容を伝達」が入る。

また、**B**には、「響きのよいことば、美しいことば、快適なリズムなどを駆使すること、音声による美の世界を創り出す」という内容が入るのだが、「響きのよいことば、美しいことば、快適なリズムなど（を駆使する）」は例示なので、本文中の言葉を使って言い換えたほうがよい。**1**段落に「ことば」という音声素材のもつ美しさを、極限まで引き出す努力がなされる」とあるので、この部分を使って「ことば」という音声素材のもつ美しさを引き出す」とするとよい。

5 【採点の観点】

○ 内容

日常の言語生活における詩的機能についての自分の考えを、詩的機能が発揮されている例を一つ取り上げて、明確に書いている。

○ 表現

文脈に即して語句が適切に使われており、内容の述べ方や表現の仕方が工夫され、わかりやすい文章になっている。

○ 表記

漢字や仮名づかいが正しく、句読点が適切に使われている。

○ 解答例

詩的機能と聞いて私が思いつくものに、商品の広告などで見かける「キャッチコピー」がある。それらは短いフレーズの中で、工夫を凝らしたことば遊びがなされているため、消費者の記憶にも残りやすい。「キャッチコピー」は商品の説明をあまりしていかなくてもかわらず、詩的機能の働きによる印象的な表現で、消費者を惹きつけるという役割を発揮していると思う。

P 65

- | | | | | |
|----------|----------|----------|---------|----------|
| 1 すい | 2 すいしん | 3 せいさん | 4 せいぞう | 5 ぜっけい |
| 6 せんでん | 7 せんもん | 8 せんちよう | 9 だとう | 10 たんしゅく |
| 11 ちゅうさい | 12 ちようしゃ | 13 つうかい | 14 ていき | 15 ていさい |
| 16 てつきん | 17 てんらん | 18 なつとく | 19 はあく | 20 はいち |
| 21 ばいばい | 22 ばいりつ | 23 はくらん | 24 ひようか | 25 ふくざつ |
| 26 べんご | 27 べんろん | 28 ほうえき | 29 ほうそう | 30 ほうぼく |
| 31 ほじょ | 32 むちゅう | 33 めんみつ | 34 もけい | 35 ゆうせい |
| 36 ゆうそう | 37 りんき | 38 りんしょう | 39 れきほう | 40 れつきよ |

P 66

8 R 4 年度

＜解答＞

1 「Ⅰ」日常に目 「Ⅱ」模型やCG

2 「a群」ウ 「b群」エ

3 見えない部分を想像し、目の前で起こっているかのように見抜く（ことができるようになる）

4 ア

＜解説＞

1 問題文にもあるように**2**段落中から答えを探すようにする。問題中の表から分かるように、**1・2**段落で、筆者は中学校まで学ぶ「理科」と高校で学ぶ「理科」との違いについて述べている。中学校までの理科で学ぶ対象は「日常目にする物質や現象」であるのに対し、高校でのそれは「日常のスケールから遠く離れた世界」であると筆者は述べている。また、高校では、そのため「模型やCGの助けを借りて、想像と実際の知識を比較する」作業が欠かせないとも述べている。

2 **3**段落で、筆者は「科学」とはどのようなものであるかを、**1・2**段落で述べた「理科」との違いを明確にしながら説明している。このことを説明している選択肢はウである。また、**4**段落の最初に「つまり」とあることから、**4**段落の最初の一文は、**3**段落の要約であることが分かる。このことを説明している選択肢はエである。

3 問題文にもあるように「経験したことがなくても頭の中で追体験できる」理由を答える。

4 段落で、科学を「見えない部分で何が起っているかを想像し、あたかもそれが実際に目の前で起こっているかのように見抜く学問」であると筆者は述べている。「経験したことがなくても頭の中で追体験できる」のは、科学を学ぶことで、「目の前で起こっていない（経験していない）」ことを「想像し、目の前で起こっていることのように見抜く」ことができるからである。

4 段落で、筆者は「科学を学ぶと…物事の仕組みや歴史的繋がりが…社会的関係までも発見することができる」と述べている。要は、科学を学ぶと、自然現象だけでなく人間や社会に関する現象についても知ることができるのである。このことを説明している選択肢はアである。

5 【採点の観点】

○ 内容

「知ることが自分の力になった経験」について、どんなことを知ったのか、また、知ることがどんな力になったのかにふれながら明確に書いている。

○ 表現

文脈に即して語句が適切に使われており、内容の述べ方や表現の仕方が工夫され、わかりやすい文章になっている。

○ 表記

漢字や仮名づかいが正しく、句読点が適切に使われている。

○ 解答例

私は、周りの人と関わっていく中で自分の性格を知るとは自分の力になると感じている。自分の性格を知ること、自分の長所や短所に気づくことができる。そして、それらを知ることが勉強や対人関係に良い影響を及ぼすこともある。このように、自分の性格を知るとはその人自身の強みになっていくのだと思う。

P 69

- | | | | | | | | | | | |
|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 1 宛 | 2 鮮 | 3 著 | 4 憩 | 5 傷 | 6 著 | 7 営 | 8 戒 | 9 癒 | 10 祝 | 11 承 |
| 12 潤 | 13 拝 | 14 厳 | 15 穂 | 16 衰 | 17 赴 | 18 卸 | 19 顧 | 20 掲 | 21 抱 | 22 究 |
| 23 極 | 24 企 | 25 凝 | 26 焦 | 27 志 | 28 拒 | 29 週 | 30 支 | 31 論 | 32 好 | 33 優 |

34 健 35 裾 36 迫 37 背 38 添 39 垂 40 巧

P 70 R 5 年度

＜解答＞

1 「Ⅰ」言葉 「Ⅱ」存在の承認

2 ウ

3 他者と自己の生の条件の違いや共通の想いに気づき、自分を客観視できるようにすること。

4 エ

＜解説＞

1 空所の前後に注目して、文章中から答えを探すようにする。「聴く側」のまとめ中にある「Ⅰを通じて想いをキャッチする」は、第一段落にある「言葉を通じて互いの『想い』を受けとめあう」を受けた表現である。また「Ⅱが成立」は、第六段落にある「こうやって、互いの間に存在の承認が成り立つてきます」を受けた表現である。

2 第四段落の最初にある「もちろん」に注目する。ここでは、「もちろん…」。しかし、「…。」という形を使って、自身の考えについて述べていることがわかる。なお、「もちろん」の直後には一般的な内容や自分の考えに対して予想される反論が、「しかし」の直後には筆者の考えがくる。

3 問題文から、答えが「……に気づき、……ができるようになる。」という形になることをつかむ。第八段落に「それぞれ（他者と自分）がどのくらい違った生の条件…を生きてきたかに気づく」「人間としての共通な想い…にも気づいていく」とあることから、問題の言う「気づいたこと」とは、「他者と自分の生の条件の違い」「共通の想い（を持っていること）」の二つだとわかる。また、同じ段落に「自分を客観視できる」とあることから、問題の言う「できること」とは「自分を客観視すること」だとわかる。

4 第十三段落の「どこに向かって生きていけばよいかがはっきりしてきます」第十四段落の「現代は、よき（価値）が曖昧になってきている時代です」などから考える。エはこの二か所をまとめた選択肢だと考えられる。なお、

才の「価値観が多様化する現代」に関する内容は文章中にない。

5 【採点の観点】

○ 内容

「対話」によって得られるものについての自分の考えを、自分の体験や見聞をまじえて明確に書いている。

○ 表現

文脈に即して語句が適切に使われており、内容の述べ方や表現の仕方が工夫され、わかりやすい文章になっている。

○ 表記

漢字や仮名づかいが正しく、句読点が適切に使われている。

○ 解答例

私は、「対話」によって相手と今以上に良い関係を築くことができると思う。以前、友人とけんかをした。少し時間をおいてから、彼女と話をしたところ、自分の当時の思いが明確になっただけでなく、彼女の思いも理解することができた。今では彼女は無二の親友である。このような経験から、「対話」は自分の思考を振り返りつつ、相互理解を深めることができる機会なのだと思う。

P 74 10 R 6年度

＜解答＞

1 「I」交わる 「II」外側

2 どんな一人称的な視点からでも、世界の現れ方や、世界への働きかけ方を想像する

3 傍観者のままでは、行動を起こせない

4 Ⅰ

5 イ

＜解説＞

1 **I** は「一人称の世界」についてのまとめ中にあるので、それについての記述がある**2**段落に注目する。この段落の最後に「ようするに世界内存在として世界と交わることで……」とあるので、**I** に「交わる」が入ることがわかる。また、**II** は「三人称の世界」についてのまとめ中にあるので、それについての記述がある**3**段落に注目する。この段落の冒頭に「……自分を世界の外に置き、その外側の視点から俯瞰的に眺めた世界である」とあるので、**II** に「外側」が入ることがわかる。

2 「三人称の客観的世界の獲得」とは、どういうことを文章中の言葉を使って説明する。傍線③の直前に「これが」とあり、「これ」は、その直前の「こうして想像のなかで、どんな一人称な視点からでも世界を眺めることができる」を指している。また、三人称の視点から「世界を眺める」とは、「世界がどう立ち現れるか、それにもとづいて世界にどう働きかけるかを想像する」ことである。このようなことから、「三人称の客観的世界の獲得」とは「一人称の視点をもとに、三人称の視点から（どんな一人称の視点からでも）、世界がどう立ち現れるか、それにもとづいて世界にどう働きかけるかを想像できる」ことである。よって、この内容を空所の前後に合うように、指定字数内でまとめるとよい。

3 世界に働きかけるためには「一人称の主観的な世界が必要」である理由について述べている部分を文章から探す。**5**段落の最後に「身体でもって世界に働きかけるためには世界のうちに身を置いて、一人称的に世界を把握し

なければならぬ」とあり、ここが理由について述べた部分ではある。しかし、この部分は「十七字で抜き出しなさい」という解答の条件に合わないで、この内容を言い換えた「傍観者のままでは、行動を起こせない（のである）」を解答にする。

4 **5** 段落の冒頭に「このように」とあることから、この段落はそれまでの内容をふまえて、筆者が自身の主張を述べようとしている段落だとわかる。また、「しかも」という接続語を用いて、世界に働きかけるためには一人称の主観的な世界も必要であるということの説明している。よって、このことをふまえた内容になっている**エ**が正解である。なお、**ア**は「具体例を交えながら主題を提起することと読者の興味を引いている」、**イ**は「原因となる事柄を説明／**3**段落で述べられる結果」、**ウ**は「問題を提起している」、**オ**は「筆者の主張の根拠を提示」がそれぞれ間違いである。

5 **6** 段落に「『いま、ここ』から世界を知覚的・情動的に感知し、それにもとづいて世界に働きかける」とあり、「いま、ここ」とは、「一人称の世界」であると**2**段落からわかる。よって、このことをふまえた内容になっている**イ**が正解である。なお、**ア**は「一人称の世界の体験である『感じ（クオリア）』を記憶すること」、**エ**は「三人称の視点をもとにして」が間違いである。また、文章中に**ウ**、**オ**に関する記述はない。